



# 真龍小便り

【学校の教育目標】  
☆心と体をきたえる子  
☆美しい心をもつ子  
☆考えて行動する子  
☆生き生きと学ぶ子

No.10 令和6年11月29日発行

「マジックテープ」から「ひも」へ変えたあとの方が大切

校長 斉藤 直彦

子どもが成長するにつれて、使うものも変わっていくことがあります。

例えば、学校内で履く「上靴」です。

1年生の入学当初は、ほぼ100%の子どもがマジックテープで固定するタイプの靴ですが、6年生になる頃には、ほとんどの児童がひも靴を選択しています。

マジックテープ靴を選択するのは、「ひもを結べなくても、足と靴をしっかりと固定できる」ことが、大きな理由だと思いますが、朝、玄関で子どもたちの様子を見ると、ひもが緩んでいるところか、両方とも結ばれることなく、ずるずるとひもを引きずって歩いている高学年の子どもをたまに見かけます。

階段付近で、ひもを踏まれてしまうと、大げかにつながりますので、先生方は、そういう子には声を掛けています。でも、声をかけ続けても改善にはつながらず、しだいに、声をかけられることがわずらわしくなってきた、「なんでしばらなきゃならないんだ！」という反抗までではないものの、それに近い主張をする子まで出現することもあります。**足元には、「人間性」が現れます**ので、「かっこよく」靴を履いてほしいのですが、学校だけでは指導の限界を感じています。

靴以外にも、学年が上がるにつれて変化する持ち物は、ほかにもあります。例えば、スマホやタブレットなどの情報端末機器です。早い子だと、4年生ごろから、自分専用のスマホを親から与えられて、友達とLINEしている子もいます。お分かりだと思いますが、学校から貸与しているタブレットでは、LINEなどのSNSは利用できません。なぜなら、学校での学びに必要ないからです。でも、**家に帰ってから利用しているLINE**によるトラブルや、通信ゲームの遊び方の**トラブルなどの相談にも、本校の先生方は、丁寧に子どもたちから話を聞いて対応しています**。もちろん、ネットマナーやネットモラル教育は、「学校でも行った上で」です。

子どもに「何かを持たせる」ことは、「100%保護者の責任」とまでは言いませんが、持たせるのであれば、「正しい使い方」を**子どもと一緒に「考えて」「使わせてみて」「うまくいっていないところは修正して」「うまくいっているところは認めて」という、保護者の関わり（プロセス）を増やしてほしい子どもが高学年では少し見られる**なあ、というのが、正直なところですよ。

日	曜	12月の主な行事
1	日	
2	月	講話朝会 図書返却週間～6日
3	火	短縮日課 厚岸町標準学力調査
4	水	避難訓練 放課後学習 第4回 PTA 役員会 18:30
5	木	短縮日課 読み聞かせ（2年生中休み）
6	金	短縮日課
7	土	
8	日	
9	月	児童朝会（放送） 冬休み図書貸出
10	火	短縮日課 冬休み図書貸出
11	水	冬休み図書貸し出し 児童委員会
12	木	短縮日課
13	金	短縮日課
14	土	
15	日	
16	月	大掃除週間～20日
17	火	短縮日課 5年総合カトリック幼稚園交流学習
18	水	クラブ⑥(最終) SC 来校
19	木	短縮日課 朝読書回収日
20	金	短縮日課 1・2年生4時間授業日
21	土	
22	日	
23	月	講話朝会 後期第1ステージ終了 交通安全指導日
24	火	冬季休業開始(～1/15)
25	水	
26	木	子ども未来ミーティング
27	金	
28	土	
29	日	学校閉庁日
30	月	学校閉庁日
31	火	学校閉庁日

## 「ながら見守り」のお願い

**12月の帰宅時刻 16:00**  
この時間以降の外出は保護者同伴をお願いします。  
児童の下校時刻に合わせて、また夏冬春休み中は日中家の外に出て、庭作業や掃除などを行いながら、同時に児童の見守りを行う「ながら見守り」への協力をお願い致します。

## ふるさと教育を通して行う探究的な学習

現在、6年生では総合的な学習の時間に、ふるさと教育の一環として「厚岸町の魅力を発信しよう」をテーマとして探究的に学習を進めています。探究的な学習とは、子どもが自ら問いや課題を設定し、調査や意見交流などを通して学びを深めていき、自身のことに気づいていく学習活動です。探究的な学習では、下記のような過程で進めています。

### ①課題の設定

厚岸町役場観光商工課の方をゲストティーチャー（GT）としてお招きし、厚岸町の観光の現状やこれまでの取組についてお話を聞きました。GTの説明や統計資料をもとに、自分が伝えたい厚岸町の魅力や発信相手、PR方法について個人課題を設定しました。

### ②情報の収集

自分が考える厚岸の魅力を発信するために、必要な情報を収集しました。GTの助言にもあった「自分たちだから伝えられること」を町外の方々へ発信するために、地域の商業施設や宿泊施設へ取材に行きました。取材依頼も、電話をかけて自分たちで行いました。

### ③整理・分析

学校地域協働センター「ラポールくしろ」の方をGTとしてお招きし、効果的な情報発信の仕方について学びました。GTからは、(1)目的を明確に (2)ターゲットを絞る (3)厚岸に住んでいる皆さんだからこそできる情報発信が大事、といった助言をいただきました。子どもたちは、課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したりしながら、ポスターやパンフレット、オンライン配信などの発信方法について意見交流を重ねました。

### ④まとめ・表現

11月26日、厚岸町の交流都市である山形県村山市の戸沢小学校5年生の皆さんと、オンラインによる交流学习を行いました。7月の港まつりで踊った厚岸音頭を披露したり、インターネット検索だけではわからない町のパン屋さんのおすすめメニューを紹介したりと、厚岸に住む子どもたちならではの情報発信ができました。今後は、道の駅やスーパーマーケットにパンフレットの設置やポスターの掲示を自分たちでお願いにうかがう予定です。

他の学年でも、発達段階に応じた探究的な学習に取り組んでいます。地域の自然や文化について学習するふるさと教育と、探究的な学習はとても相性がいいです。今後も、町役場や地域の皆様のご協力を得ながら、子どもたちが主体的に取り組む探究的なふるさと教育の推進に努めてまいります。



## ブックフェスティバル

11月19日（火）、1～3年生を対象にブックフェスティバルが開催されました。厚岸情報館と読み聞かせボランティア「ちいさな絵本箱」の皆様のご協力により、子どもたちにとって、本の世界を楽しむ貴重な機会となりました。ありがとうございました。

## いじめ防止対策委員会の活動から

11月に今年度第2回目のいじめアンケートを行いました。今回も「あなたは、嫌な思いをしたことがありますか」という質問する形で行われました。このアンケートの結果、

「4月から嫌な思いをしたことがある」  
→35人(第1回目32人)

また、その内訳は、

冷やかしからかい、悪口をいわれる	15人
仲間はずれや無視をされる	7人
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしていたかたたりする	8人
ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする	6人
お金や持ち物をかくされたり、いたずらされたりする	0人
恥ずかしいことや危険なことをされたり、させられたりする	0人
メールや無料通話アプリ（SNS等）で悪口を書かれたり、仲間はずれにされたりする	0人

このアンケートをもとに、担任が全ての子どもと個別の面談をし、「どんな嫌な思いをしたの?」「あなたは、これからどうしたい?」「先生にお手伝いできることある?」などの聞き取りや、支援を行っています。

校内いじめ防止対策委員会で、個々のケースを取り上げ、情報共有を行い、組織的な対応、支援に当たる体制を整えています。

このように、学校では、担任を中心に多くの教職員が、嫌な思いをしている子や困り感を抱えている子に寄り添って話を聞き、心理的安全性の確保に努めております。また、スクールカウンセラーによる教育相談（保護者の相談も可能）も、随時受け付けております。お子さんのことで何か気になることがありましたら、学校までお知らせください。

## 真龍おはなし隊・学校司書の【今月のおすすめ本】

『積み上げ話をご存知ですか?』

学校司書：小島郁子

先日、厚岸情報館による《ブックフェスティバル》が低学年を対象に開催されました。その中で、読み聞かせボランティアちいさな絵本箱さんが「積み上げ話」を読んでくださいました。

「積み上げ話」とは、言葉がどンドンつながって積み上がっていく、詩のようなものです。たとえば、

これは、わらぶき屋根家です。

これは、わらぶき屋根の家に住んでいるおじいさんです。

これは、わらぶき屋根に住んでいるおじいさんが飼っている馬です。

これは…

といった具合です。子どもたちはすぐ覚えて、復唱していました。

2年生へのブックトークで私も実演してとても楽しかったので、厚岸情報館から他の積み上げ話も借りてきました。どれも楽しいお話ばかりで、家族読書にも最適かと思います。

冬休み前には厚岸情報館に返却しますので、長い冬の夜、ご家族みんなで積み上げ話を楽しんでみませんか?

